

第 11 回（令和 2 年度 第 2 回）経営評価委員会（書面開催）議事録

委員：高杉委員長・鹿島委員・露口委員・木村委員・吉岡委員（5 名）

会議開催について：

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、各委員と相談のうえ会議形式ではなく書面開催で開催することを決定した。

【内容】

<議題>

① 令和 2 年度 運営状況について

事務局から「資料 1 和泉市立総合医療センター運営事業 令和 2 年度運営状況（4 月～1 月）」に沿って、令和 2 年度の運営状況の報告を行った。

- ・ 1 日あたりの患者数は入院が 294 人、外来患者数が 925 人となり、それぞれ前年度比で 16 人、47 人の減少となった。
- ・ 診療単価は、入院は前年度から 16.9%増。外来については、前年度と比べて 12.6%増となった。
- ・ 救急患者数は 8,595 人となり、前年度比で 4,183 人の減少となった。救急患者のうちの搬送者は 2,352 人、搬送者の入院率は 36.0%となった。
- ・ 和泉市消防本部からの救急搬送件数は 1,486 人となり、前年度比で 492 人（24.9%）減、市外搬送は 2,051 人へと 471 人（18.7%）の減少となった。
- ・ 平均在院日数は全診療科で 11.8 日となり、前年度比で 0.4 日増加した。
- ・ 患者紹介率は紹介患者受入増に伴い 71.7%となり、前年度比で 2.1 ポイント増加し、逆紹介率も 9.4 ポイント増加の 70.6%となった。
- ・ 人間ドックの件数は 1,179 人となり、前年度比で 10.7%の減となった。
- ・ 患者サービス向上に係る取り組みとしては、新型コロナウイルス感染症臨時特別医療講演会や新型コロナウイルスに関するシンポジウム、災害時医療訓練などを行った。また、提案ポスト（投書件数）について、お礼が 17 件、苦情・要望等が 89 件、総件数 106 件があった。
- ・ 医業収益は、9.1%増の 106 億 2,903 万 6 千円、経常損益は 20 億 9,022 万 2 千円の黒字の黒字となった。

上記報告に関して委員から以下の質疑等があった。

（委員）

前年度に比べ 1 日あたりの入院・外来患者数は減少しているが、コロナ影響のなかでもよくがんばっていると思う。

(委員)

入院の診療単価が増えているが、主にどの診療科が増えたのか。

(事務局)

呼吸器内科、耳鼻いんこう科が増加している。

(委員)

紹介率、逆紹介率がともに 70%を超えているので、地域医療支援病院の指定を目指せるのでは。

(事務局)

地域医療支援病院の指定を受けれる条件は整っているので、令和 3 年度中に申請を進めていく。

(委員)

脳神経内科・放射線科の診療単価が高い要因は。

(事務局)

脳神経内科については、重症筋無力症や多発性硬化症などの神経難病の治療実績が多く、最新の高額治療薬を用いるため診療単価が上昇している。

放射線科については、放射線治療件数がグループ内施設の中においても、周辺医療機関においても件数が多く、加えて IMRT 加算も算定できる機種（トモセラピー）であることから一人当たりの診療単価が高くなる傾向がある。

(委員)

経営評価委員会も ZOOM などを活用して開催してもどうか。

(事務局)

環境が整備できるか、また、委員長、各委員の意見を聞いて考えたい。

(委員)

今後の地域医療のために、近隣の医療機関と情報共有ができる連絡会的なものを作ってはどうか。

(事務局)

指定管理者に提案。対応可能か研究したい。

(委員)

看護師が約 50 人も減少しているはなぜなのか。

(事務局)

減少の要因は特にはないが、例年、年度末にかけて看護師の人数が減少する。

（委員）

アクシデントの件数が増加している。もう少し意識を持つべきなのでは。

（事務局）

昨年度から増加している状況は指定管理者、各スタッフも認識しており、アクシデント事案にならないようより適切な対応を求めたい。

（委員）

看護師の人数が減っているにも関わらず、医業費用の給与費が増加しているのはなぜか。

（事務局）

コロナ禍の影響もあり、指定管理者の徳洲会グループ全体で医師・看護師等に手当が支給されているためである。

（委員）

医業外費用・委託費が増加している要因は。

（事務局）

医業外費用は、医療機器の購入により指定管理者負担金が増加し、委託費は検査委託費が増加したことが主な要因である。

（委員）

小児科の入院数が減っているのはなぜか。

（事務局）

新型コロナウイルスの影響もあり、救急患者受入数や救急搬送者数がともに減少しているのが要因と考えている。

（委員）

医療センターの医師・看護師の単価（給与）は公立病院としては高いほうなのか。

（事務局）

医療センター職員の給与は、徳洲会の給与規定となるので、公立病院の給与と一律に比較するのは難しい。

（委員）

非常勤の医師はどの診療科が多いのか。また、どこの病院から来ているか。

(事務局)

非常勤医師が多いのは、循環器内科 6 名、消化器内科 6 名、腫瘍内科 7 名、脳神経内科 6 名、眼科 9 名、放射線科 8 名、麻酔科 12 名である。

派遣元は、大阪市立大学、近畿大学、和歌山県立医科大学、岸和田徳洲会病院などとなっている。

(委員)

現状では利益が約 20 億円になる予定だが、今後この費用をどのように利用していくのか。

(事務局)

医療機器の更新や施設の修繕等に活用し、患者サービスにつなげていく。

(委員)

委託費が前年度より約 5,400 万円増加しているが、この要因は。

(事務局)

検査委託費が増加したことが主な要因である。

(委員)

未収金・仮受金が大幅に増えているが、この要因は。

(事務局)

未収金は、国や大阪府の補助金が入金されていないことから増加している。また仮受金については、備品等設備機器購入の補助金が決めたことから、一旦仮受金として経理処理を行っているためである。

(委員)

医業外収益の運営費補助金収益が大幅に増加しているがなぜか。

(事務局)

国からの補助金が増加している。

② 令和 2 年度 進行管理 (PDCA) チェックシート兼経営評価シートについて

事務局から「資料 2 令和 2 年度 進行管理 (PDCA) チェックシート兼経営評価シート (4 月～1 月)」に沿って指定管理者の自己評価、市の評価を報告した。

(委員)

待ち時間に関する詳細な資料はないのか。

(事務局)

次回の委員会で提示するようにする。

(委員)

紹介率・逆紹介率も 70%を超えていることから、全体的に評価する。引き続き、この評価を保てるよう取り組んでいただきたい。